

# 文芸

## 文化コンテンツ創造学科 文芸コース

TR テキストレポート科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目 必 必修科目 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

### 文芸コース専門教育科目

#### STEP①

文学の広く豊かな世界を深く知ることを目指す。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文芸特講 1	文章表現の構造と技法	S	必	2		どのように書けば文章が表現になるのか？ 文章を書く上での初歩的な知識と理論を基礎から学ぶ。
文芸特講 2	文脈を読む	S	必	2		どのように読めば文章をより深く理解できるのか？ 文章を読む上での基礎的な思考法を理解する。
文芸演習 1	対象を観察して書く	S	必	2		観察を鍛えずして語彙は増えない。また単に見るだけの観察でも表現力は磨かれない。観察という行為性の意味を学び、観察の結果を自身の表現で言語化できるような実践の場を体験する。

#### STEP②

文芸で表現できるものをさまざまに実践する。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文芸特講 3	古典を読む	S	必	2		日本の古典文学をより深く読み、日本語による文学的表現の歴史と特質について学ぶ。
文芸特講 4	小説の構造と技法	S	必	2		主として物語に注目し、小説という表現を通してわたしたちが求めている(あるいはとらわれている)、「なにか」を探っていく。
文芸演習 2	小説を書く	S	必	2		フィクションの文章を書く基礎力を養成する。小説とは、現実とはまったく違う世界を「才能」によって無から作り上げるのではなく、いわば読むことと書くことの往復運動の中から生成される言葉のつらなりと言ってよいだろう。「小説」を書くことへの足がかりを、実践的な課題を通して提供する。
文芸演習 3	文芸批評を書く	S	必	2		具体的な作品に即して近現代の批評作品に触れ、批評が取り組んできた問題を知り、その方法と表現を読み解く
文芸演習 4	エッセイを書く	S	必	2		エッセイは自分の感情を見つめ、五感をとぎすまし、「想い」という目に見えないものを言葉で伝える文芸である。想いが伝わる文章とは何かを考え、エッセイを読むことと書くことの両方の魅力を学ぶ。

## STEP③

## 自分のテーマを見つけ、それを表現する方法を探る。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文芸特講5	編集の構造と技法	S	必	2		表現を磨く上で、また表現を継続する上で、編集という思考方法の持つ効果と意義を理解し、かつ実践のために理論を学ぶ。
文芸特講6	小説を読む	S	必	2		小説とは何か。文体とは何か。表現をより深く考え、より強く実践するために必要な「読み方」を学ぶ。
文芸演習5	自分の主張を交えて書く	S	必	2		借り物の言葉ではなく、しっかりと自分の言葉を編み、いかにしてそれを表現として他者に届けるか。伝わる言葉の書き方を初歩から学び、同時に自分をそこに表出させる理論を体得する。

## STEP④

## 学びの集大成として卒業制作を完成させる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
卒業制作準備	自分の表現を思考しよう	S	必	2		卒業制作の前段階として、どのような表現をつくりたいのかを構想し、かつ他者と共有できるように計画し、合評会や教員のアドバイスを経て、「誰に・何を・どう伝えるか」を見定める。
卒業制作	自分の表現を追求しよう	S	必	4		これまでの学んだ成果の集大成として、各自が目標とする表現を完成させる。

・文芸コース専門教育科目のS科目は、オンデマンドによる遠隔授業です。3ヶ月ごとに開講され、「春期・秋期」の開講、「夏期・冬期」の開講に分かれています。

・「卒業制作準備」は4年次の夏期開講、「卒業制作」は4年次の秋期-冬期開講です。